

献 辞

中川和子教授は、平成12年3月31日定年を迎えられた。広島修道大学経済科学会は教授のこれまでの本学への貢献に対して心から感謝の気持を表し、ここに記念論文集を刊行する運びとなった。幸いにして英語グループから5編の寄稿を得て一層充実したものにする事ができた。

中川教授は、昭和32年3月広島大学大学院文学研究科英語英文学専攻修士課を修了、同年4月に進徳女子高等学校英語担当教諭の職につかれ、教育者としての道を歩まれることとなった。それ以来、武庫川女子高等学校、梅花女子大学、広島文教女子大学、広島女学院大学などで英語と英文学関係の授業を担当されたのち、昭和48年4月に本学助教授として着任されました。その後、商学部助教授(昭和59年)、同教授(平成4年)としてご活躍されたのち、平成9年4月経済科学部開設に伴い本学部に移られて、英語担当教授として学生の指導にあたられた。この43年の長きにわたり一貫して英語および英文学の教育と研究に携わってこられ有為な人材を世に送られた。

教授は、英語演劇と英国児童文学について造詣が深く、J. B. プリーストリー、テレンス・ラティガンらの戯曲やJ. R. R. トルーキン、C. S. ルイスらの古典的児童文学について研究を積み数々の論文を著された。

教授の清廉で温厚誠実な人柄は教職員から深い尊敬を集めておられ、発言はいつも中庸を得て適切であり、それはもつれた糸を上手にほどいて下さるという趣があり、その高い見識に誰もが耳を傾けました。また、教授は教育にも情熱を注がれ演習を重視した懇切丁寧な講義は「わかりやすく学びやすい」と学生に好評でした。

教授は、本学の英語教育に多大の貢献をなされ、とりわけ1991年の大学設置基準改正の前後に、全国的に教養教育、語学教育が激動した時期には、グループ代表として本学での英語教育の見直しと改革に深く関わられ、『英語副専攻』の設置など経済科学部と商学部の新しい英語カリキュラムの創設に重要な役割を果た

れた。

本学を去られた後、さらなる御健康と自由で楽しい第二の人生がスタートすることを祈念する次第である。

2000年10月

経済科学部長

児 玉 正 憲